



2005.7.15
第19号

発行
四国ゴルフ連盟
〒790-0921
愛媛県松山市福音寺55-1
電話 089-990-3260
FAX 089-990-3261

高橋(東徳島)ダントツ優勝

第25回四国アマ選手権

11アンダー 独走で15打差



「強気で攻めたのがよかった」と語る高橋選手

第25回四国アマ選手権(6月7〜10日、Jクラシックゴルフクラブ、7068ヤード、パー72、1800人参加、予選カットライン160S)今年から4日間競技となった大会は晴天にも恵まれ、ベテラン、中堅若手の激しい混戦が予想されたが、初日から首位に立った高橋佳伸選手(東徳島)が終始独走、72ホー

ル通算11アンダーの驚異的なベスト記録で初優勝した。空梅雨天気で大会コースのラフは伸び足りなかつたが、アシジュレイションの激しいグリーンは練習日と変じて難易度が急上昇、選手を苦しめた。その中で飛ばし屋の高橋選手は正確なショットと巧妙なパッティングで高速グリーンを制し、3日目のパー

プレーを除いてすべてアンダーパー。2位以下の大差をつけた。2位以下の大差で、第11回大会優勝の羽藤悟志(新伊予)、昨年の覇者崎山俊紀(今治)の両40代選手が健闘、日本アへの出場権を手中にしたのは立派だった。最終成績は次の通り。
①高橋佳伸(東徳島)277②池田優(松山国際)羽藤悟志(新伊予)安達正人(スカイベイ)292⑤吉田幸太郎(阿波)前田和宏(スカイベイ)294⑦田岡誠(ニレオ高原)295⑧八坂讓(松山国際)崎山俊紀(今治)村上敦(松山シーサイド)296⑩谷本伊知郎(屋島)297小峰尚宏(志度)298⑬片岡大育(託開)299以上日本アマ選手権へ

高橋選手の話 大会の前日が22歳の誕生日だったし、今回は開催地折願だった優勝カップを手に笑顔の高橋選手

折願だった優勝カップを手に笑顔の高橋選手

近年にない好コンディションに恵まれ、酷暑の中で熱戦が展開された。女子15・17歳の部は優勝決定のプレーオフにもつれ込んだほか、中学・小学生の部で兄弟優勝が出るなど大会を盛り上げた。成績次のとおり。
男子15・17歳の部 ①立川祐太(香川西)146②前田和宏(徳義塾)147、谷川泰輔(同)同、片岡大育(香川西)同⑤新田瑠威(香川西)148⑥笹岡真裕(明德)150、植本健介(香川西)同⑨瀬尾拓矢(同)151以上日本ジュニアへ
女子15・17歳の部 ①木村麻希(明德)147②小橋絵利子(香川西)147③丑田恵美(明德)150④坂本優里(香川西)151以上日本ジュニアへ
男子12・14歳の部 ①原敏之(香南中)148②松山英樹(明德)154③山岡成稔(鳴門教大附)157④1位のみ日本ジュニアへ
女子12・14歳の部 ①森岡紋(香川西)148②山岡成稔(鳴門教大附)157④1位のみ日本ジュニアへ

女子は横山(高松) 世代交代の初V

第25回四国女子アマ選手権(5月19・20日、鮎滝カントリークラブ、6101ヤード、パー72、62人参加)

ここ数年、なぜか雨がつきものだった本大会だが、今年は2日間とも晴天に恵まれ、シーズンの開幕競技にふさわしいハイレベル

の熱戦となった。この結果、初日2オーバーで4位タイにつけていた横山倫子(高松グランド)が、2日目を一入1アンダーで手堅くまとめ、36ホール通算146で念願の初優勝を果たした。

例年、上位に居並ぶベテラン、中堅勢が欠場したこともあって若

手学生陣の台頭が際立った大会となった。この中で過去6度優勝のベテラン二宮薫選手(今治)が5位と健闘したのはさすがだった。



2005年度第25回 四国女子アマゴルフ選手権競技

第27回日本女子アマ選手権(6月21・25日、札幌G.C.)
四国からはシードを含む10選手が出場、横山倫子選手がベスト16に。

第27回日本女子アマ選手権(6月21・25日、札幌G.C.)
四国からはシードを含む10選手が出場、横山倫子選手がベスト16に。

第27回日本女子アマ選手権(6月21・25日、札幌G.C.)
四国からはシードを含む10選手が出場、横山倫子選手がベスト16に。

第27回日本女子アマ選手権(6月21・25日、札幌G.C.)
四国からはシードを含む10選手が出場、横山倫子選手がベスト16に。

であったのでVを狙っていた。初日の4アンダーで調子に乗れたグリーンが良くレッドに攻めたのが好結果になったと思う。

第90回日本アマ選手権(7月5〜9日、大山G.C.)
四国からは13選手が出場、高橋佳伸選手が決勝に進出、ベスト16に入った。

第47回四国グランドシニア春季ゴルフ競技(5月27日、今治C.C.、88人参加)
①古川武(こんぴら)写真G90、H24、N66②多田和利(今治)92、24、68③藤田群司(松山)77、9、68④小川加行(今治)76、6、70⑤小笠原重治(黒潮)80、10、70⑥山内尚聡(松山)79、9、10⑦佐藤茂昭(こんぴら)83、13、70⑧山田利夫(四国)86、15、71⑨柿原幸安(今治)81、10、71⑩大沢巳代子(同)97、26、71
なお、48回秋季大会は11月9日エリエールG.C.で開催予定。

沖繩のジュニア迎え
高知で交流競技大会
高知県ゴルフ協会は先ごろ、沖繩県の高知生ゴルフフェスを招いて土佐山田G.C.で両県ジュニアゴルフ交流競技大会を開いた。
沖繩県は女子プロの宮里藍さんをはじめ多くの優れた選手を輩出していることで知られ、高知県協会では平成15年夏にジュニア育成の先進県に学ぼうと沖繩を視察訪問、昨年は高知のジュニア選手を派遣して交流競技を実施した。今回は沖繩の高知生14人を迎え地元の中・高校生23人が個人・団体戦で技を競い親睦を深めたものの、両県協会では今後も交流大会を続けることにしている。

ジュニア権 プレーオフや兄弟優勝 酷暑にめげず熱戦

第25回四国ジュニア選手権(7月21・22日、北条カントリー倶楽部、男子96人、女子27人、小学生13人)

第25回四国ジュニア選手権(7月21・22日、北条カントリー倶楽部、男子96人、女子27人、小学生13人)

第25回四国ジュニア選手権(7月21・22日、北条カントリー倶楽部、男子96人、女子27人、小学生13人)

第25回四国ジュニア選手権(7月21・22日、北条カントリー倶楽部、男子96人、女子27人、小学生13人)

目が不自由でも ナイスショット 道後GCでツアー大会

うち下ろしのミドルホール。目の不自由なプレーヤーがティーグラウンドに。手にはドライバー。介護役のガイドが球をティーアップ

6月下旬、松山道後G.C.で開かれた日本盲人ゴルフ振興協会(JBGA)のブラインドゴルフジャパンツアー四国大会での一コマ。

同協会はゴルフを通じて目の不自由な人々に生きる喜び、福祉社会の実現を図ろうとするNPO法人。発足以来十四年、盲人ゴルファーも今では百人を越し、毎年、全国七地区でツアー大会を開催している。

今回の四国大会は、昨年の琴平C.C.に次ぐもので、地元男性を含む全国の九選手が参加、ボランティアのガイドに助けられながら元気にプレーを楽しんでいた。



目が不自由とは思えないプレーを見せる参加選手たち

おらが倶楽部でござる

其の二十 久万カントリークラブ



らの清々しい緑風が吹き抜けます。こんな快適で健康的な自然環境が女性やシニアに好まれるのでしよう。

山の朝は早い。とりわけ当クラブの名物イベント「久万山ふれあいコンペ」の日のフロントは、夜明けを待ちかねたように来場されるシニアさんたちでにぎわいます。

「お早いですね。お元気でしたか」「ハイ、絶好調ですよ。」家内が入院してね「心配ですね。おなじみさんのお相手でフロント嬢は早朝から大忙し。

女性参加で華やき

メンバー以外でも気軽に参加できる「ふれあいコンペ」が発足してから七年。最初は月一回だった開催日ですが、今では月二回になるほどの人気コンペに成長しました。

その秘密のつは、男性の参加資

格が六十歳以上なのに女性は無制限にしたこと。この結果、コンペに予想以上の華やかさが加わりました。

度が高く、八月の平均気温は24度前後。「四国の軽井沢」と呼ばれる別天地の涼しさで、クラブハウス二階

標高630 涼しさ抜群

スリル満点のグリーン

ミッドやグランドシニアに混じってゴルフファッションも鮮やかな女性たちの元気がいばいのプレーを想像ください。心が浮き立つではありませんか。

もう一点は「久万カン」が標高630メートルの高地にあることで、四国のゴルフ場では一番海拔高

の食堂は窓を全開すればクーラーいらずです。

その上、全国的にも有名な良質材の産地なので緑したたる山々か

ち下ろしに加え、約十年前にグリーンをベントに改造した際、尾崎将司プロのチーフキャディ佐野木計至氏（松山在住）に監修を依頼、グリーン

が一段と難しくなりました。スリル満点だね」とは県外からのお客様の声。

昨年、久万カンは開場三十周年を迎えました。造成時からの変遷を見守ってきた当倶楽部の渡部平総合運営委員長は「最初、こんな山の中にゴルフ場が造れるのか半信半疑でした。この三十年間、改造に改造を重ね、ようやくオーナーの東進



久万カントリークラブ
住所：〒791-1204
愛媛県上浮穴郡久万高原町東明神乙333-1
TEL:0892-21-1875

名管理理事の理想とする箱庭のように美しく、楽しい個人的なコースになったと思う」と語ってくれました。

賞品に地元農作物

楽しく個人的なのはコースだけではありません。冒頭で紹介した、ふれあいコンペでは賞品に味の良い久万米や季節の高原野菜、果物のほか地元産の味噌、醤油などを出して喜ばれています。

これも当クラブの特色を出そうとの発想からです。今後も心のこもった久万カンならではのサービスに努めます。松山自動車道の松山ICから国道33号で約三十分。この夏は涼風吹く久万カへぜひお越し下さい。

（久万カントリークラブ支配人・野口公博）

お四国随想

手島皓一

車で一年半かけて八十八カ所を廻ってみました。もちろん信心ではなく、悪く言えば一般的な興味もわからない。特別な信仰もなく、そうかと言って信仰に対して嫌悪感も持っていない。要するにどちらでもいいという気持ちで廻っている。

だが、信仰が不必要かと言うと決してそうは思わない。神に祈っている姿は美しいと思ってきた。ではなぜ廻つたかという、八十八カ所には前から興味があり、本で読んでみたり話を聞いていた。今回、文章を書く以上は二度廻つてみようと思った、と言う方が正直だろう。

しかし、廻っている途中から考えが変わつたに気づいた。山中の静かな寺の佇まい、道端の庶民の寺というような寺を見ているうちに、いつの間にか八十八カ所の寺に惹かれていく自分に気づいた。そうかと言って決して信仰心がたわけてはいない。途中

からどうしても次の寺に行つてみたくなり、何とかして暇を見つけて続けた。

特に愛媛県に入った頃から八十八カ所につき傾倒している自分に気づいて、どうしたのだろうと考えた。昨年末に終わった時には自分なりに達成感と満足感を味わっていた。それと共にもう一度行つてみた

なつた自分を見出していた。その考えは日がたつたが、強くなつてきた。そしてあの寺はどうだったと考えている自分に気づいた。

振り返つてみると確かにどの寺も



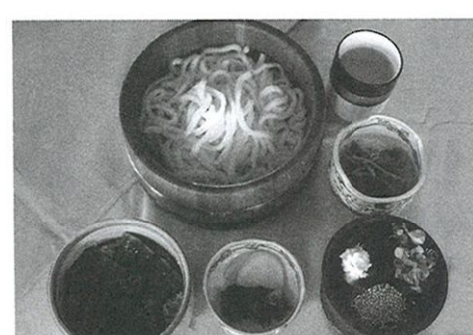
またそこに住んでいる連中が庶民をむさぼっているだろうと思うと強い嫌悪感を感じていたが、あの山中の質素な山寺や道端の小さな田舎寺には、そんな感じが切しなかつたのは嬉しかった。

いや、そんな奢侈や権威が見られなかつたので親しめたのだと思う。それがもう二度ゆつくりと廻りたいという気持ちを持たせた大きな原因だと思つている。

さっそく暇を見つけて、また回り始め、現に二十番香鶴林寺まで行った。年が明けたら二十番大龍寺から始めたいと思つている。金剛杖や納経帳もお礼も持たない。境内を静かに眺めるだけでいい。

編集を終えて

まさに「干天の慈雨」でした。梅雨の季節なので晴天の続いた6月、とりわけ瀬戸内沿岸の各地は記録的な異常小雨に見舞われました。ガムの貯水率は急速に落ち込み取水給水制限が強化されました。コースを守るために大量の水を要するゴルフ場は大ピンチ。11年前の大干ばつの再来



たらいうどんセット (御所CC)

これに「ミナぎや」や「山菜ちらし」など季節の二飯が付いて、人前千五百円。

開場以来 人気No.1

当倶楽部のオープン以来の名物メニュー。今では御所といえ、たらいうどんと言われるほどだ。もともとうどん好きの土地柄で、レストランの小川清チーフによると昔はきこりさんたちが仕事のと昔は、川原で大きなたらいを囲み食っていたという。メニューのうどんの薬味は素朴に青ネギ、土しろうが、煎りごまだけ。付けただけは厳選したかつを節二種からとった濃厚、少し辛めのもの。好みに応じ温冷どちらもOK。

伊予さつま汁 (道後GC)



愛媛南予地方の郷土料理で、伊予の味にこだわるレストランの玉井修料理長お奨めの一品。瀬戸内産の鯛といりこ、麦味噌をこんがり焼いて香りを出し、地元特産のかつを出して溶きのばす。片栗粉、砂糖少々を加えて味を整え、ぬくい麦飯にかける。薬味のコンニャク、みかんの皮、じゃこ天の細切り、青ネギと混ぜ食べる。香ばしさともろやかさが食欲をそそる。

お勧めの郷土料理

同じ冷や汁料理でも鹿児島薩摩汁は地鶏が使われるが、海の幸に恵まれている当地では魚が主役。だから「伊予さつま」と書くうだ。一人前千五百八十円。